

【学校の教育目標】 学びを楽しみ、よりよく生きる人を育てる

↓

子どもが楽しく学び、楽しさから「主体的・対話的で深い学び」な姿が見られている。大切にしたい。

↓

確かな学びから獲得した力でよりよく生きてほしい。

【めざす子ども像】

明るく元気に楽しく学べる子ども

自分のことに自分で取り組む子ども

まわりの人と仲良くする子ども

【各学部教育目標】

聴覚障がい教育部

- 幼稚部 「遊びや生活を通して、心と体と言葉を育て、人とのかかわりを楽しみながら生活する子どもを育てる。」
- 小学部 「学ぶことに興味や関心を持ち、生活全般で身につけた言葉の力をもとに、人とのかかわりを大切にして生活する児童を育てる。」
- 中学部 「学力とコミュニケーション能力の向上を図り、人とのかかわりの中で自己理解を深め、社会性のある生徒を育てる。」

知的障がい教育部

- 小学部 「友だちと仲良く遊び、主体的に活動に取り組む児童を育てる。」
- 中学部 「人とのかかわりを広げ、学習や活動に意欲的に取り組む生徒を育てる。」
- 高等部 「社会参加に向けての意識を高めながら、心豊かにたくましく生活する生徒を育てる。」

【学校研究テーマ】

「学びがつながる授業づくり」～年間を見通した学びのつながり～

2年次（3年計画）

【研究の重点】

- 各学部の指導者全員が、幼児児童生徒の学習の様子や課題を把握し、評価・改善を踏まえて年間を見通したつながりのある指導を行う。
- 指導者間で幼児児童生徒の学びを把握・評価しあい、教材や手だてを工夫しながら目標達成に向けた授業づくりの実践を積み上げていく。

I はじめに

令和4年度に完全実施となった新学習指導要領では、各教科の目標や内容の連続性・関連性を整理したこと、各段階間の円滑な接続を図るため、新たな段階を設けるなどつながりを整理し系統性のある内容を設定したことなどが要点として示された。そのために大切になるのは、指導者が、目標・内容・手だての妥当性や系統性、様々な学習場面への広がりを把握することであり、それを指導者間で共有していくことではないかと考えた。これを本校では「学びのつながり」と捉え、年齢や学年に応じ学習したことを積み重ねていく「縦のつながり」と、学んだことが他の学習や日常生活に広がることを「横のつながり」と考え、学ぶ内容の明確化とつながりのある指導計画の作成について、3年次計画で整理・検討・実践・改善していくことにした。

1年次は、聴覚障がい教育部では「やりとりまとめシート」を活用し、指導者の働き掛けや幼児児童生徒の応答などのやりとりについて振り返りながら、より適切な働き掛けや手だてを指導者間で検討し、実践を積み上げた。知的障がい教育部では、学習指導要領を基に学習の内容をまとめた「学びの履歴シート」を活用し、児童生徒のこれまでの学習状況を把握した。それらを基に、授業づくりにおいて学ぶ内容や目標、手だての在り方を検討し、他の学習場面でも教科別の指導で学んだことを活用する「つながり」を意識した授業づくりを進めた。

1年次の成果と課題を受け、今年度聴覚障がい教育部では「研究授業の持ち方」「指導案の様式」「やりとりまとめシート」(表1)を変更し、適切な実態把握とそれに対する手だての工夫、やりとりにおける適切な言葉掛けについて検討しながら実践を行った。小グループや職員全体で検討を重ねたことで、様々な視点から子どもの実態や言葉の課題、有効だと思われる手だてを考えることができた。

知的障がい教育部では、文部科学省著作教科書(通称 星本)を参考に作成した「学習内容表」(表2)を作成・活用することで、児童生徒の現在の学習状況を把握するとともに、学習の目標と内容を選びやすくなった。また、学習の評価と年間指導計画の改善・見直しをするために、期間を設けて実施記録を記入した。学習内容表から内容を選んで授業実践を行い、実施記録を使って評価・改善を行う流れに取り組んだことで、授業内容や年間指導計画の改善と見直しにつながった。

授業づくりにおいては、各教育部で作成した参観シートや事後研シート等を活用して話し合いを行い、学習の目標や内容、教材、手だての在り方を検討し「つながり」を意識した授業づくりを進めた。各学部において、他教科とつながる学習内容の設定や児童生徒の生活に活かせる題材、身近なものを教材として扱うなどの工夫と検討を行い、他教科や生活場面につながる授業実践を行うことができた。

II 研究計画（2年次／3年計画）

（1）年次計画

1年次		2年次		3年次	
方向性の決定	【聴覚部】 ・研究の方向性の決定 ・国語の教科書の確認	つながりのある学びの整理	【聴覚部】 ・言葉に関する課題の適切な把握と手立ての充実 ・やりとりの積み重ね ・指導案の様式の検討	つながりのある学びの実践とまとめ	【聴覚部】 ・言葉に関する課題の適切な把握と手立ての充実 ・やりとりの積み重ね ・指導案の様式の活用 ・3年間の研究のまとめ
	【知的部】 ・教科等の選定 ・各学部の研究の方向性の決定		【知的部】 ・学習内容表の活用と見直し ・実施記録の作成・評価と年間指導計画の改善		【知的部】 ・学習の縦と横のつながりを踏まえた授業づくりの検討とプロセスの実践 ・3年間の研究のまとめ
個の学びの把握	【聴覚部】 ・個の課題の把握 ・手立ての検討・共有 ・やりとりの積み重ね	つながりのある学びの整理	【知的部】 ・学習内容表の活用と見直し ・実施記録の作成・評価と年間指導計画の改善	つながりのある学びの実践とまとめ	【知的部】 ・学習の縦と横のつながりを踏まえた授業づくりの検討とプロセスの実践 ・3年間の研究のまとめ
	【知的部】 ・学びの履歴シートの作成 ・個の実態や学びの状況の把握 ・指導者間での共有		【知的部】 ・学習内容表の活用と見直し ・実施記録の作成・評価と年間指導計画の改善		【知的部】 ・学習の縦と横のつながりを踏まえた授業づくりの検討とプロセスの実践 ・3年間の研究のまとめ
授業実践					

III 今年度の研究について

1 学校研究テーマ

「学びがつながる授業づくり」～年間を見通した学びのつながり～ 2年次（3年計画）

2 研究の目的

年間を見通して、学びのつながりのある授業実践を積み上げる。

3 研究の方法

<聴覚部>

- ① 幼児児童生徒の実態や言葉に関する課題を的確に把握し、それに対する指導者の適切な手だてをとった授業づくりの実践を積み上げていく。
- ② 指導者と幼児児童生徒のやり取りにおいて、指導者の言葉掛けが適切であったかを検討し、改善を行っていく。

<知的部>

- ① 学習内容表を活用して指導の目標や内容を明確にするとともに、実施状況を記録し評価・改善を行うことで、年間を通してつながりのある実践を進めていく。
- ② 授業を通して、指導者間で教材や手だての在り方を検討し、成果と課題を把握し合いながら、つながりを意識した授業づくりの実践を積み上げていく。

V 年間計画

月	研究に関する取組	内容
4	研究全体会①	今年度の研究についての提案 研究学部会
7	公開研修会	「教育活動の充実を目指して ～知的障がい教育の重要性とカリキュラムマネジメントを踏まえた指導のための個別の指導計画作成と評価についての考え方～」 山形県立村山特別支援学校 校長 草間 智弘 先生
1 1	研究全体会② 研究のまとめ	各学部の中間報告
1 2	公開授業研究会	研究概要説明、公開授業、事後研究会
3	研究全体会③	今年度の研究のまとめ 次年度の研究について

<公開授業研究会 公開授業名・助言者>

学 部	授 業	助言者
聴覚障がい教育部 小学部	生活単元学習（重複2年） 「みんなで あそぼう 2」 授業者 三浦 さゆり	酒田市立平田小学校 元校長 荘司 秀明 氏
知的障がい教育部 小学部	算数（4年1組） 「どれがおおい ～水のかさ～」 授業者 佐藤 佳那	山形県立楯岡特別支援学校寒河江校 教頭 土肥 修 氏
知的障がい教育部 中学部	数学（3年1組） 「時刻や時間を表わそう」 授業者 今野 豊和	酒田市立富士見小学校 教頭 松田 貴祐 氏
知的障がい教育部 高等部	数学（2年1組） 「全部でいくらか考えよう」 授業者 齋藤 敦子	山形県教育センター特別支援教育課 指導主事 鍵水佐知子 氏